

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程 教科(国語)
1 【いきる】	⑤【やり抜く強さ】 救援活動などに従事した人々の働きと苦勞を通して、どんな状況においてもやり抜く強さについて考える。	総 合 行 事

【題材】

「稲むらの火」を演じて考える。

国語「百年後のふるさとをまもる」を劇「稲むらの火」(学習発表会)に発展

【対象】

5年1組 33名、5年2組 36名 計 69名

【実践の概要】

1 国語「百年後のふるさとをまもる」

○主な学習活動

「稲むらの火」のモデルとなった浜口儀兵衛の伝記を読み、儀兵衛の考え方や生き方について話し合った。

他の伝記を読み、今の自分と関わらせながら、自分の生き方についての考えを持つようになった。

「百年後のふるさとをまもる」をキーワードに、復興と防災の考え方を学んだ。

2 劇「稲むらの火」

伝記を基に、儀兵衛を主人公とした脚本を書き起こし、北厨川小学校版「稲むらの火」として学習発表会で発表した。

○主な学習活動

脚本を読み込み、大震災と重ね合わせて考えながら、登場人物の心情を自分なりに想定した。

表現を工夫し、登場人物の心情になりきって演技し、劇を成功させることができた。



【まとめ】

儀兵衛の業績は、大震災からの復興のお手本になりうるもので、この学習活動は子どもたちにとって大変よい道しるべになった。

昨年度、来校した大沢小学校の4年生と交流し、再会を約束している5年生にとって、来年の大沢小学校訪問について、自分たちは何を目的に、どんなことを用意したらよいのか考えるこの上ない契機となった。

薄まりつつある大震災の記憶とは裏腹に、5年生の復興に対する意識は高くなっている。

**『稲むらの火』を演じて考える**

五年二組 名前 阿部 文香

私はこの学習発表会で、セリフを言うとき、気持ちを込めて、大きな声で言いました。

私は、前を向いて、上を向いている社会を2人には、ほ金活動をしたり、ヘルメットや、テトラバクを集めたりして、東日本大震災で被害を受けた人の手助けをしていきたいです。そうして、前を向いて、上を向いて、いきる社会をつくりたいです。

**『稲むらの火』を演じて考える**

五年二組 名前 滝又 勇飛

ぼくは、その場面の村人の役でした。セリフは、みなみから村人を呼ぶために大事な稲むらに火をつけて知らせたのかと、このことを表現して、いい演技ができました。

あきらめなさいで、上を向いて前へすすむことか、このことについて、なにかと思っています。